

テゼからの提言 2020 年



つねに前へ進む けっして人々の大地から離れることなく

2019 年 9 月に「地上における信頼の巡礼」の新たな始まりとなる大会をケープタウンの街で開催しました。南アフリカはすばらしく、そして美しい国です。25 年前、この国はアパルトヘイトに反対する力、そして非暴力の力を世界に示しました。しかし、民族グループ間の深い分裂によって、今日なお傷ついています。

このような中で、1,000 のご家庭が家の戸を開き、参加者を迎え入れたという事実は、それ自体がすでにひとつのしるしです。参加した若者は、他の民族や異なる教派の背景を持つキリスト者^{クリスチャン}と出会おうとしたのです。このような若者のように、私たちも、どこであれ普段生活している場所で、他者に向かってゆき、互いに歓待しあう勇気を見いだすことができるでしょうか！

巡礼の道を出発！それが私たちへの一日の招きです。落胆に捕らえられるのではなく、むしろたくさんの新しい生き方のしるし、未来の兆しを識別していくのです。これらはすべて私たちの周りにあるものです。新しい取り組み^{イニシアチブ}に心を向けましょう——つねに綿密に計画されたものとは限らず、しばしば暫定的なものであったとしても。私たちは前進することで解決策を見つけるからです。

ヴロツワフでのヨーロッパ大会に際し、「テゼからの提言 2020 年」のタイトルとして、あるポーランド人の女性の人生から触発されたフレーズを選びました。ウルシュラ・レドゥホフスカ——多くのキリストの証人^{あかしびと}のなかから聖人となり、時代に先駆けてヨーロッパの市民となった人物です！彼女の人生を表して、このように言った人がいます。「つねに前へ進む、けっして人々の大地から離れることなく」と。

私たちはすでにヴロツワフへ行ったことがあります。30 年前の 1989 年 12 月に、ポーランドは「鉄のカーテン」の東側で最初のテゼのヨーロッパ大会をホストしました。ベルリンの壁が崩壊していくにつれ、新たに得た自由への情熱が人々の心を満たしました。あれから世界は変わりました。若い世代が私たちの時代において新たな自由と正義の道を切り開いていくのだと私は大いに確信しています。

人生の道、信仰の道において、私たちはみな「巡礼者」であり、しばしば地上においては、みな「よそ者」ですらあります。試練の時、そして喜びの時に、神は誠実であり、私たちの献身(コミットメント)に留まりつづけるよう招いておられることを忘れないようにしましょう。神はすでに平和の未来を用意しておられます。

ブラザー・アロイス(院長)

提言1 つねに前へ進む…ふたたび歩き出そう

「主はアブラムに言われた。『あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。』」（創世記 12:1）

物事が順調に進んでいようと、一見乗り越えられないと思われるような困難に直面していようと、信仰によって、新しい始まりが つねに可能であることを思い出しながら、私たちは道を歩みだすようにという招きに応えます。

聖書の最初の部分で、私たちはアブラハムという男性に出会います。アブラハムは、どこに行くのか知らないまま、すべてを置いて出発するように招かれました。妻サラと彼は、神が道を示してくださるという信頼によって促されて、徒歩の旅人、巡礼者になりました。

アブラハムとサラは、神から与えられた新しい土地に到着すると、いつも移動中であるかのように天幕(テント)にとどまります。しかし最後には、二人の数々の困難は祝福となりました。アブラハムとサラは、家にとどまっていたのは決して見つけることができなかったことを発見したのです。

聖書は、このような力学ダイナミクスに特徴づけられています。つまり、神によって備えられた未来に向けて出発するという力学です。道はいたるところに落とし穴がある可能性もあります——神の民は、エジプトを脱出した後、40年もさまよったのです。

そして、神ご自身がその民を導き、ともに歩むことで巡礼者となります。「見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守る。」(創世記 28:15)

荒野でその民を導くことで、神は、ご自分の声に耳を傾けることを民に教えるとともに、人々の前に思いもよらない可能性を開かれたのです。

- ・ ひとりで、または他の人たちとともに、神が道を出発するように招いておられる聖書の物語を読んでみて／読み返してみましょう。
創世記 28:10-15、出エジプト記 13:17-22、詩編 126、イザヤ書 43:1-2、
マタイ 2:13-23、ルカ 10:1-9、使徒言行録 11:19-26。

提言 2 つねに前へ進む…周りにいる人たちに心から寄り添って

「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。」(マルコ 6:34)

イエスは、「枕する所もない」巡礼者としてご自身を差し出されます(マタイ 8:20)。そして、次の「良い知らせ」(福音)を告げ知らせました。神は近づいている。神は世界を変容させようと働いておられると。そして神は、今度は私たちに、人類家族のための刷新の働きに参加するようにと招いておられます。

キリスト・イエスは、その生き方によって、どこから始めればよいかを私たちに示されました。低くされた人、もっとも弱く傷つきやすい人に寄り添うことによって始めるのだと。イエスが他の人に対してそれほど心を配ることができたのは、彼が神に錨を下ろし、深く結びついていたからです。人生のあらゆる場面で、彼は聖霊に導かれるままに行動しました。

キリストはこの世に生まれ、私たち人間の状態を完全に共有されました。十字架での死によって、彼は最期まで苦しみ、そして神と私たちに対する絶対的な誠実さを表されました。復活により、キリストは、神が愛のうちに人類に与えた新しい始まりの証人になりました。

多くの暴力と辱めを目の当たりにして戸惑い、自分がこの地上でよそ者であるかのように感じる人も多くいます。キリストに付き従おうとするとき、キリスト者は神に信頼を置きます。その信頼は、無関心に陥らせるのではなく、現実と向き合い、全力を傾け、他者と連帯するように導きます。

二世紀に、著者不詳のある手紙でキリスト者について次のように述べられています。「キリスト者は、自分の国に住んでいます、ただ旅人として滞在するのです。あらゆる外国も彼らにとっては祖国であり、またすべての祖国が彼らにとっては外国なのです。」(ディオグネトスへの手紙)

- ・ キリストが非常に貧しい人々に寄り添ったことを私たちの生き方で表現するための具体的な取り組みを模索しましょう。
- ・ 地域の諸教会と協力して、十字架とキリストの復活を中心とした祈りのために定期的に集まりましょう。

提言 3 つねに前へ進む…祖国から追われた人々とともに

「寄留者があなたの土地に共に住んでいるなら、彼を虐げてはならない。あなたたちのもとに寄留する者をあなたたちのうちの土地に生まれた者同様に扱い、自分自身のように愛しなさい。なぜなら、あなたたちもエジプトの国においては寄留者であったからである。わたしはあなたたちの神、主である。」(レビ記 19:33-34)

世界中で、祖国を離れることを余儀なくされ、未来を求めて他の場所に行くことを決める女性、男性、子どもがいます。彼らの思いは、前に立ち上がるいかなる障壁よりも強いのです。

私たちはみな、自分の文化の独自性を守りたいと思うものです。しかし、他者をもてなし、歓待することは、人間に与えられたもっとも美しい資質のひとつではないのでしょうか。外国人がやってくるのが複雑な問題を生むのは当然のことです。移民の流入は適切に管理する必要があります。しかし、たとえ困難が生じる可能性があっても、それは機会にもなりえるのです。

また、同じ都市、同じ近隣、同じ村に何世代にもわたって住んでいるにもかかわらず、互いに見知らぬ者同士のままでいるということも起こりえます。そして、同じ文化を共有しているはずの人々の間でさえ、根深い誤解があることもあります。では私たちは、自分と同じ優先順位や信念を持たない人々と、深いところで出会おうとすることができるでしょうか。

遠くから来た人であろうと、互いに知り合うことなくすぐ近くに住んでいた人であろうと、他者に向かって歩みだすことによって、私たちとは異なる考え方をしていることをよりよく理解できるようになることは間違いありません。

- ・ あやふやかな情報や統計に満足するのではなく、外からやってきたその移民の方、その家族の状況を知るために、彼らの物語に耳を傾け、理解するために時間をとりましょう。
- ・ 若者のなかには、物理的にはなにに不自由のない人であっても、自分がどこにも属していないと感じる人がいます。家族のつながりは壊れ、最終的には深刻な、そして時に見えない孤独に至ることもあります。時には私たちのすぐ近くであって、心の追放により苦しんでいる、このような人々に心を寄せ、ともに歩むようにしましょう。

提言 4 つねに前へ進む…すべての被造物の一部として

主の木々、主の植えられたレバノン杉は豊かに育ち、そこに鳥は巣をかける。こうのとりの住みかは糸杉の梢。(…) 主よ、御業(みわざ)はいかにおびただしいことか。あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。地はお造りになったものに満ちている。(詩編 104)

奇跡的な私たちの惑星を脅かすあまりにも大きい危機を目の当たりにして、老いも若きも、無力感や落胆を覚える人が多いと思います。近い将来には、気候変動に関連する災害によって、ますます多くの人が家を離れることを余儀なくされるでしょう。

しかしなお、信頼は私たちを運命論と苦悩に屈しないよう招きます。聖書のはじめの方に、次のように記されています。「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。」(創世記 2:15) この詩的な物語をとおして、聖書は強調しています。神の創造の働きのなかで、私たちは大地を大切に、保護するように特に責任を負っているのだと。私たちが被造物の不可欠な部分を担っているのだと再発見するとき、私たちの生活はより人間らしいものにされます。

私たちの地球は、感謝と喜びのうちに受け取ることができる創造主である神からの大切な贈り物です。地球は私たちの共通の家であり、神は私たちに、すべての生き物と次世代のためにそれを見守るようにと招いておられます。

気候変動の緊急事態に直面して、多くの新しい取り組みが生まれています。こうした取り組みによって、皆の共通意識もますます変わりつつあります。もちろん、個人で対策を講じるだけでは十分ではありません。しかし、変化をもたらすためには、一人ひとりの行動が不可欠な条件です。

- ・ 私たち一人ひとりが個人のレベルで行動するように招かれています。ライフスタイルの見直し、できるところでの簡素化、すべての被造物の美しさに心に向けること。
- ・ 被造物を守るために、異なるキリスト教の教派がともに立ち上がることも可能です。この緊急の必要性は、エキクメニカルな(教派を超えた)取り組みに参加するための呼びかけとなるのではありませんか。すでに存在するものもあり、2019年の夏にテゼが参加した「緑の教会」のネットワークはその一つです(www.taize.fr/ecco を参照)。

提言5 つねに前へ進む…いつも心のうちに錨をおろしながら

イエスは言われた。「あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。」(マタイ 6:6)

「自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者である」(ヘブライ 11:13)とあるように、私たちは、自分自身であり続けるために、心のうちに錨をおろして留まる場所を見つける必要があります。この錨をおろすというのは、祈りにおいて、友としてキリストと対話をするなかで起こるものではありませんか。

キリストへの私たちの信頼が揺らぐことも確かにあります。しかし、教会において、互いに頼りにできるコミュニティーを築き、私たちの疑いや疑問を分かち合い、模索のうちに支えあう繋がりを見つけることはできないでしょうか。

つねにこの神との^{コミュニオン}交わりに立ち返ることは、大きな自由を私たちにもたらします。神はその愛によって、わたしたちを個人や集団での隷属から解放し、私たちがその歩みを妨げるものを後ろに置いて歩み出すようにと望まれ、励ましておられます。

どのようにして人々の大地から離れることなく、つねに前進できるでしょうか。神の国がすでに心のなかに、そして私たちの間で湧きあがり始めているという確信を私たちのうちで成長させることによってなのでしょうか。

そうです。私たちの心が安らぐことのできる場所があります。それは心の重心とも言える場所であり、イエスが私たちに、「あなたがたは心から安らぎを得られる」と告げておられる(マタイ 11:29)場所です。

そして、恵みの息吹である聖霊は、私たちを前へと導きます、暗い夜の日々さえも…

2020年の信頼の巡礼

テゼで

年間を通じた週ごとのプログラム

日曜日から日曜日まで、青年の国際的な集い。共同の祈り、聖書の学び、小さなグループでの分かち合い、そして実務的なボランティアワーク。聖書の学びとともに1週間で沈黙のうちに過ごしたい人は、ブラザーかシスターにご相談ください。

聖週間とイースター／4月5日(日)～4月13日(月)

聖週間の祈りと夜明けであるイースター礼拝をテゼ共同体と分かち合うことで、日々キリストの道行きとともに歩みます。

若いキリスト教徒とイスラム教徒の友情の集い

7月8日(水)～7月12日(日)

互いに深いところで出会い、兄弟姉妹として生き、ともに行動しようとするものです。

18歳から35歳の方々のための黙想の週

8月23日(日)～8月30日(日)

毎朝の祈りの最後に聖書による観想があり、さまざまな国から集まった人々がワークショップを担当します。小さなグループでの分かち合い、具体的なそれぞれの生き方(コミットメント)について振り返るとき。

次回のヨーロッパ青年大会

2020年12月28日(月)～2021年1月1日(金)

第43回ヨーロッパ大会の開催場所は、ヴロツワフで発表されます。

聖地への巡礼

2021年2月21日(日)～2月28日(日)

聖地に住む人々、特に若いキリスト者の言葉に耳を傾けます。さまざまなキリスト教コミュニティー、そして他の宗教を代表する方々と出会います。いくつか聖地の主要な場所で祈ります。

真実を明らかにする

2019年に私たちのテゼ共同体は、ブラザーが関与するセクシャル・ハラスメントの訴えに関する真実を明らかにし、向き合っていく難しいプロセスを選択しました。この信頼の道の歩みを続けるため、私たちはすべてを明らかにすること、そしてみなさんの声が届くことを望んでいます。詳細については、www.taize.fr/protection をご覧ください。